

# 竹田市都市計画マスタープラン

概要版

令和4年3月



竹田市

# 竹田市都市計画マスタープランについて

## 改定の背景と目的

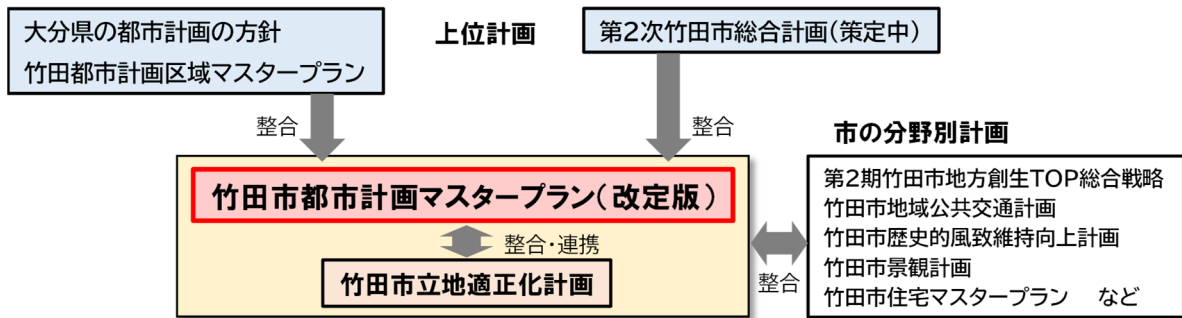
本市においては、総合的見地に基づいたまちづくりを進めるための将来ビジョンとして、平成25年3月に「竹田市都市計画マスタープラン」を策定しました。その後、少子高齢化及び人口減少のさらなる進行に伴い、地域社会の担い手不足や地域経済の縮小による都市の活力低下が深刻な状況となっています。

このような本市を取り巻く情勢の変化を踏まえ、都市機能のコンパクト化を推進するとともに、支所周辺など市内各地の生活拠点の維持や、豊かな自然環境や歴史・文化的景観の保全、災害に強いまちづくりなど、今後のあるべき都市像を見据え、竹田市都市計画マスタープランを改定するものです。

## 計画の位置づけ

本計画は、大分県が定める「竹田都市計画区域マスタープラン」や、竹田市の上位計画「第2次竹田市総合計画※」に整合しながら、本市における公共交通、住宅、歴史まちづくり等、分野別の各種計画と整合を図りながら改定します。また、本市のコンパクトなまちづくりに向けてより実効性のある施策を示した「竹田市立地適正化計画」を同時に策定します。

### ■ 竹田市都市計画マスタープランの位置づけ ■



※第2次竹田市総合計画は策定作業中(令和4年3月時点)

計画の対象区域 竹田市全域  
 計画の目標年次 2045(令和27)年



## 竹田市の現状と課題

### 都市の現況・問題点

- 本市の人口は、過去 20 年間で 30%近く減少。2020 年時点で、老年人口(65 歳以上)が生産年齢人口(15~64 歳)を上回る。
- 過去 40 年間で、建物用地は約60%増加し、田は約40%減少。近年の新築着工の多くは用途地域内であるが、農地転用は用途地域外が多い。
- 公共交通は、特にバスで利用者の減少が顕著。一方、竹田阿蘇道路(中九州横断道路)の開通による広域交通網の変化により、IC予定地周辺などに新たな都市機能の立地が見込まれる。
- 商業、医療、福祉など生活サービス施設は、ほとんどが用途地域内や各支所の周辺に立地。近年は、総合文化ホール(グランツたけた)や歴史文化館・由学館など、文化施設の集積も進展。
- 土砂災害リスクの恐れのある箇所が、用途地域内に多く存在。また、稲葉川や玉来川の氾濫による浸水リスク対策として、治水ダムの整備が進展中。
- 第二次産業の就業人口や市内の事業所数の減少、地価の低下など、市の活力の低下が懸念。
- 本市の公共施設は、1人あたり延べ床面積ベースで全国平均の 3.6 倍であり、維持には多額の改修・更新費用が必要となるため、市財政への負担が懸念。
- 市民からは、現在の住居や居住地には概ね満足しているが、身近な生活サービスや働く場の充実、災害に強い市街地環境や公共交通の充実、空き家・空き地の活用を求める意見が多い(アンケートより)。
- 中学生からは「将来は竹田市に戻りたい」という意見が多く、本市の将来像として「生活に必要なサービス」「人々が盛んに活動」「誇れる景観」が求められている(アンケートより)。

### 課題の整理

#### ①人口減少・超高齢化社会への対応

- ・深刻化する人口減少・高齢化の中で、高齢者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりが必要です。

#### ②市街地のコンパクト化の促進

- ・拡大した市街地をコンパクトに集約し、歩いて暮らせるまちづくりが必要です。
- ・都市機能を中心市街地に集約し、歩いて暮らせる範囲内の利便性向上が必要です。
- ・各支所周辺など身近な拠点の機能充実が必要です。

#### ③公共交通網の維持

- ・今後、高齢化の進展により、運転免許返納により移動手段を持たない人が増加するため、移動できない人の孤立を防ぐため、移動手段としての公共交通の確保は不可欠です。
- ・中心市街地への公共交通のネットワークを維持することで、全ての市民が、商業・医療などの生活サービス機能を楽しむ環境づくりが必要です。

#### ④中九州横断道路の整備に伴う交流や産業活性化の促進

- ・中九州横断道路の整備を契機に、産業・観光面での交流の活性化に備えた、土地利用の適切な規制・誘導が必要です。
- ・大分市など広域から竹田に来てもらうために、より一層のまちの魅力向上が必要です。

#### ⑤災害に強いまちづくりの推進

- ・災害リスクの十分な理解を促し、安全に暮らすことのできるまちづくりが必要です。
- ・災害リスクの高い地域では、土地利用規制なども考慮した安全な市街地づくりが必要です。

# まちづくりの将来像

## まちづくりの将来像と基本方針

### 将来像

恵み豊かな自然を守り・育み、  
歴史・文化を紡ぎ歩むまち竹田

### 基本 方針

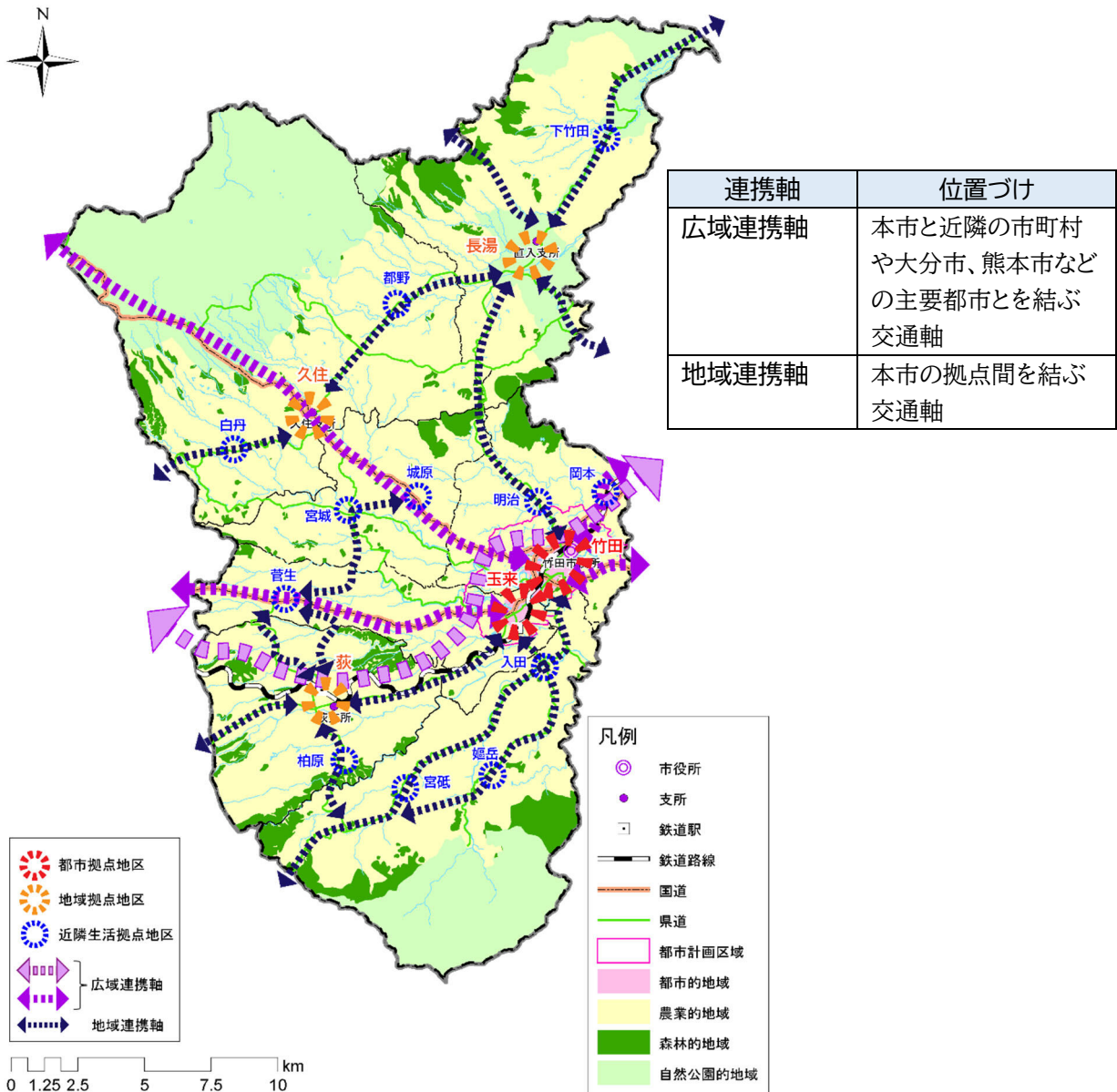
1. 竹田の顔となる中心市街地と、生活を支える身近な地域拠点の維持・存続
2. 竹田を象徴する歴史・文化と豊かな自然の保全・活用による域内外の交流の活性化
3. 広域及び域内の交流を促進する交通網の充実と、交流・連携の促進
4. 市内の産業活性化と、地域を牽引する人財の育成を通じた、地域の持続性の維持
5. 災害に強く安全なまちの構築

### 将来 目標人口

2030(令和 12)年	17,000 人 (本計画の将来目標人口)
	↓
2045(令和 27)年	12,600 人 (長期的な目標人口)

## 将来都市構造

本市では将来都市構造として、都市機能の集積に基づく3層の拠点区分と、骨格を成す道路などの交通軸を2種類の連携軸から構成します。



拠点地区	整備方針	生活利便施設 (都市的サービス)の例
都市拠点地区	本市のみならず奥豊後地域の広域的な拠点性を有し、多様な都市的サービスを提供する地区として都市機能を集積	総合病院、高校、文化ホール、図書館、大規模商業施設、行政本庁、交通結節点(駅、バスターミナル)
地域拠点地区	基本的な都市サービスを提供する地区として、公共施設や日常の買い物・医療の需要を満たす施設を集積	病院・診療所、学校、公民館、商業施設、行政支所等
近隣生活拠点地区	日常生活の暮らしを支えるサービスを提供する地区として、基礎的な生活機能を集積	郵便局、公民館、生活雑貨店、バス停留所等

# 全体構想

## ■土地利用の方針

都市的地域	商業・業務地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田地区：住民だけでなく観光客など来訪者にとっても居心地の良い、回遊性・利便性の高い商業・業務地の形成</li> <li>・玉来地区：多様な消費者需要に対応できる商業地の形成</li> <li>・七里地区：市役所など行政管理中枢機能を有する官公庁施設の維持</li> </ul>
	工業地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路沿道の工業地：既存産業の支援</li> <li>・中九州横断道路のIC予定地周辺：新たな産業の誘致</li> </ul>
	住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業・医療施設と住居が混在する地区：歩いて暮らせる生活利便性の高い住宅地の形成</li> </ul>
農業的地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業基盤の整備・充実化、農地の利用集積による経営規模の拡大</li> <li>・耕作放棄地の発生防止及びその復旧による農地の保全、遊休農地の活用</li> <li>・農業経営の効率化、集落営農の組織化、農業後継者や新規就農者の確保・育成</li> </ul>	
森林的地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生産林」と「環境林」を区分、目的に応じた保全・活用</li> <li>・造林や間伐等の計画的な実施、森林施業の集約化、林業従事者の育成、林業・作業道の整備支援</li> <li>・河川沿いの人工林の広葉樹林化による土砂災害防止、竹の繁茂などで荒廃した里山林への手入れ、伐採跡地への植林、環境林としての保全・活用</li> </ul>	
自然公園的地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域固有の豊かな自然を保全、魅力あるレクリエーション空間の創出、エコツーリズムなど交流人口の増加</li> </ul>	

## ■都市施設の整備方針

交通体系	広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中九州横断道路の未整備区間(竹田阿蘇道路)の早期整備に向けた連携</li> <li>・円滑な地域交通の確保と、広域連携軸に相応しい道路景観や沿道景観の形成</li> </ul>
	地域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点地区どうしの連携・交流、市内の観光ネットワークとしての役割を位置づけ</li> <li>・中心市街地と地域拠点地区を結ぶ連携軸における円滑な地域交通の確保</li> <li>・道路拡幅や歩道設置等による安全で快適な道路環境の実現</li> </ul>
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR豊肥本線の利用促進</li> <li>・豊後竹田駅の駅前広場整備による拠点性の向上</li> <li>・竹田・玉来両地区間の周遊利便性を向上する都市内交通の導入</li> <li>・市内各地区から中心市街地を結ぶバス路線の維持</li> <li>・荻、久住、直入の各地域拠点にアクセスするデマンド交通システム</li> </ul>
公園・緑地・自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田市総合運動公園の活用と、民間の資金、技術、経験などを活かした公園づくり</li> <li>・既存の都市公園、身近な公園の維持・充実</li> <li>・都市公園等の災害時緊急避難場所としての活用、ユニバーサルデザインの導入、防災倉庫を備えた防災拠点として位置づけ</li> </ul>	

上下水道・河川	水道関連施設	・上水道、水源、配水池の耐震化や地域の状況に応じた簡易水道の集中監視のシステム化並びに老朽配水管の更新など、水道関連施設の整備を推進
	生活排水処理施設	・地域の状況に応じて、農業集落排水や合併処理浄化槽など、生活排水処理施設の整備を推進 ・竹田地区、玉来地区の合併処理浄化槽の普及を推進 ・下水路の施設点検・補修の定期的な実施
	河川	・河川流域が有している保水機能や遊水機能の維持・保全 ・河川管理施設の改修、適切な維持管理 ・まちづくりと一体となった、河川の親水整備や河川空間の利活用 ・玉来川、芹川のかわまちづくり事業の推進
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小売業者の移動販売参入支援や、集団購入による宅配等、交通弱者が安心して生活必需品を購入できる環境づくり</li> <li>・橋梁長寿命化点検・計画策定のほか、道路、公園など公共施設の定期的な維持補修</li> </ul>	

### ■都市景観形成の方針

竹田地区の城下町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世からの町割を守り、江戸時代からの町屋や武家屋敷等の貴重なまちなみ景観を保全し未来へ継承</li> <li>・市街地を取り囲む山林や丘陵地の景観の保全</li> </ul>
市街地	・新旧の建物や周辺の自然環境との調和を図り、地域の個性が感じられるまちなみ形成
里山	・棚田の風景や高原に広がる畑、田畑周囲の斜面に広がる里山等、動植物への配慮も含め、市民や来訪者に懐かしさや潤いを与える緑豊かな景観の保全
自然公園	・くじゅう連山・久住高原の開放的な景観、祖母傾山系の急峻な山々と深い渓谷が特徴的な景観は、生息する動植物も含め保全し、観光・交流資源としての活用を、関係機関と連携し推進

### ■都市防災の方針

水害リスク対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉来ダムの整備による、上流部での洪水調節や治水対策の強化</li> <li>・緊急ため池整備事業等の計画的に推進</li> <li>・ハザードマップや防災情報伝達体制の整備等、ソフト対策の推進</li> <li>・堤防護岸・水門・樋門等の定期的な見回り、維持管理</li> </ul>
土砂災害リスク対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業等の計画的な実施(県実施事業への協力含む)による土砂災害の防止</li> <li>・土砂災害の危険性が高い急崖部などの斜面地等の安全対策</li> </ul>
地震・火災リスク対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の防災構造化、建築物の不燃化・耐震化・堅牢化の促進</li> <li>・特殊建築物(学校、病院、工場等)の防災環境の整備</li> <li>・一時避難地の計画的な配置・整備、消防・避難活動等の対策強化</li> </ul>
地域防災力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な地域防災力の向上(防災士の育成・強化、防災訓練等の支援、若年層の消防団員の確保・育成、避難計画や地区防災計画の策定支援など)</li> <li>・全世代を対象に防災教育、防災意識啓発</li> <li>・災害ボランティアの育成</li> </ul>
要配慮者・避難行動要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者の情報収集と、避難支援プランの策定</li> <li>・社会福祉施設の利用者・入居者の安全確保に向けた体制や避難路等の整備</li> <li>・観光客・旅行者等が災害に遭遇した際の安全確保・避難等の事前対策</li> <li>・外国人の防災環境づくり(多言語対応の標識・広報、安全確保支援など)</li> </ul>

# 地域別構想

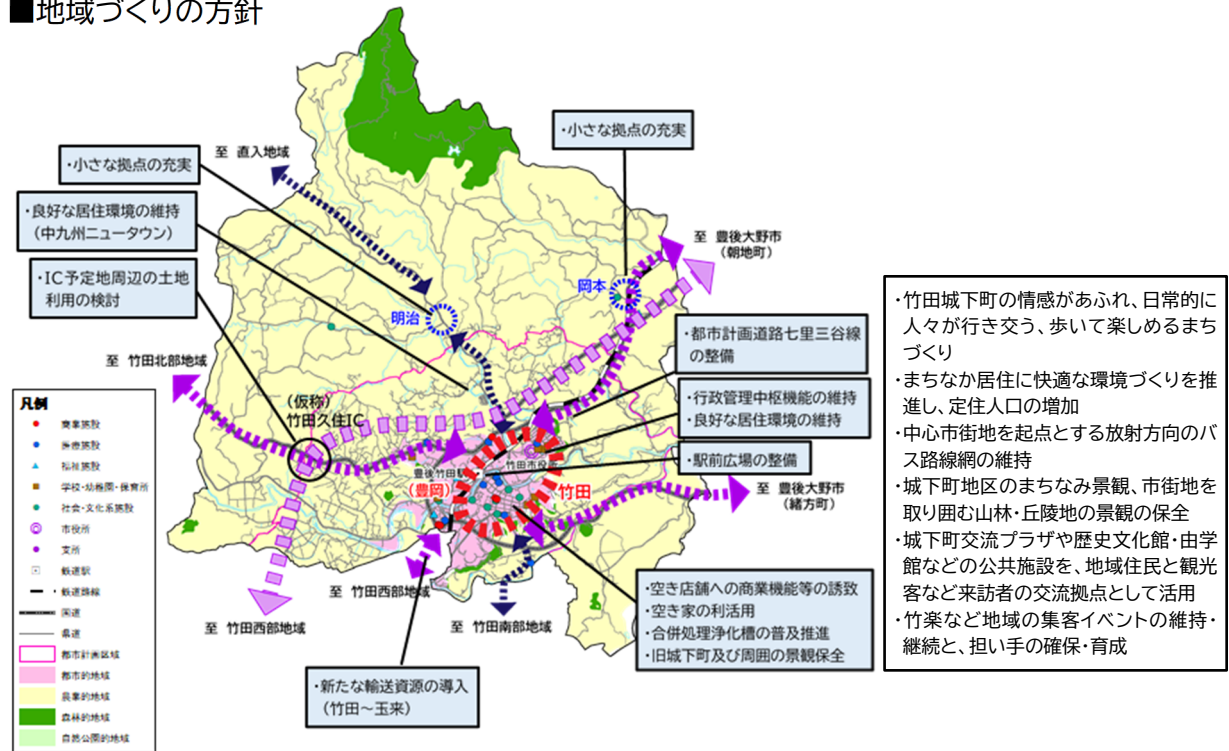
「まちづくりの将来像と基本方針」や全体構想を踏まえ、7つの地域ごとに地域づくりの目標及び基本方針と、実現のための施策の方向性を定め、地域別構想として取りまとめました。

## 竹田東部地域

### ■地域づくりの将来像

**生活・活動・交流の場として城下町のストックを活用し、歴史・文化を未来へ継承するまちづくり**

### ■地域づくりの方針

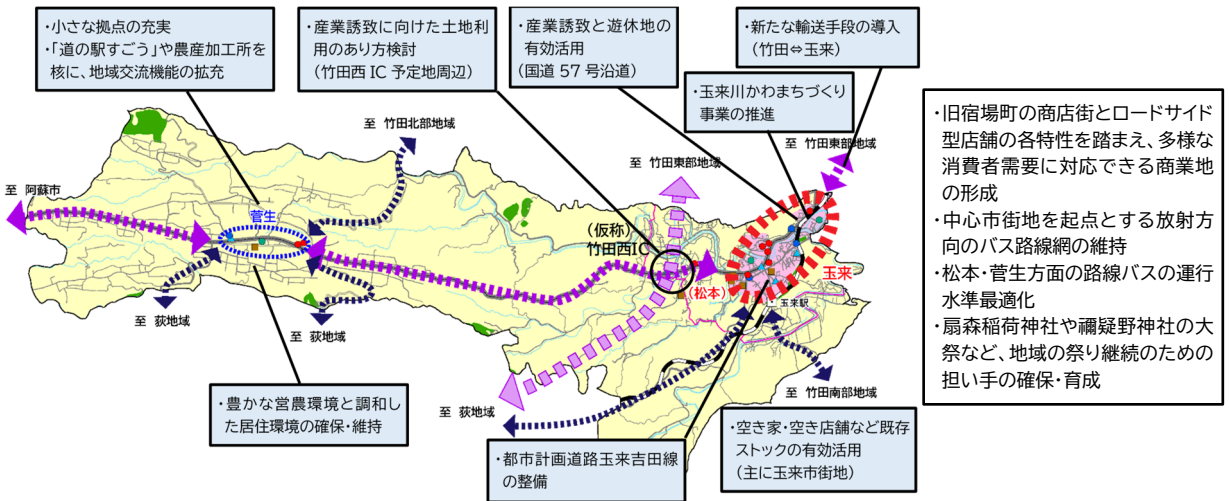


## 竹田西部地域

### ■地域づくりの将来像

**市民の都市生活を支える機能と、交通体系の変化をとらえ、新たな活力を創造するまちの形成**

### ■地域づくりの方針



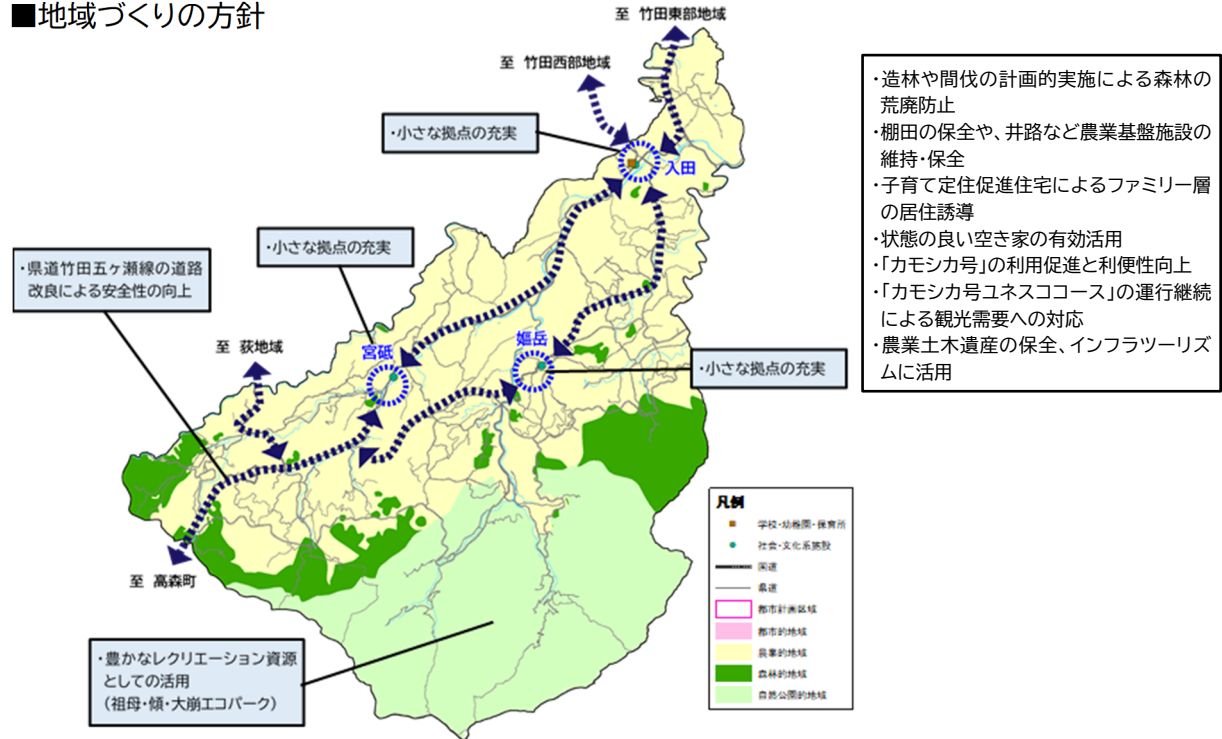


## 竹田南部地域

### ■地域づくりの将来像

**祖母傾山系の自然と共生・調和した、安全・安心に暮らせる里づくり**

### ■地域づくりの方針



## 竹田北部地域

### ■地域づくりの将来像

**豊かな自然・文化を継承しながら、農ある暮らしと交流を盛んにする里づくり**

### ■地域づくりの方針



# 萩地域

## ■地域づくりの将来像

**竹田の農業生産基地として、農業と生活機能が調和する地域づくり**

## ■地域づくりの方針

・豊後萩駅周辺を交通拠点として、地域内のデマンド交通化  
 ・就農希望者を中心としたU・Iターンの受入れの推進

- 凡例**
- 商業施設
  - 医療施設
  - ▲ 福祉施設
  - 学校・幼稚園・保育所
  - 社会・文化系施設
  - 市役所
  - 支所
  - 鉄道駅
  - 鉄道路線
  - 国道
  - 県道
  - 都市計画区域
  - 都市的地域
  - 農業的地域
  - 森林的地域
  - 自然公園的地域



# 久住地域

## ■地域づくりの将来像

**久住高原・くじゅう連山の雄大な自然と営農環境が調和する地域づくり**

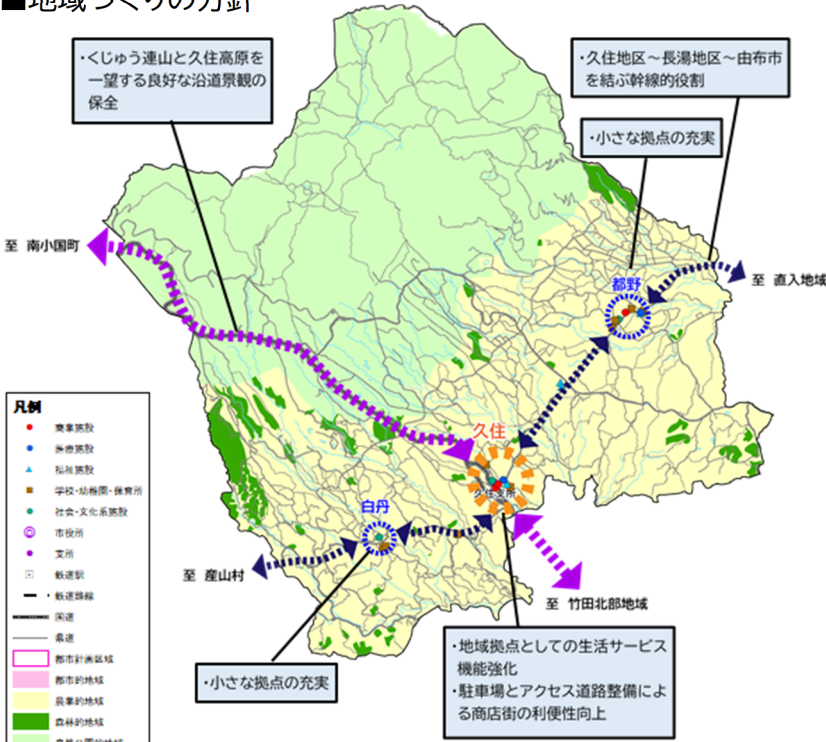
## ■地域づくりの方針

・くじゅう連山と久住高原を一望する良好な沿道景観の保全

・久住地区～長湯地区～由布市を結ぶ幹線的役割  
 ・小さな拠点の充実

・長湯線(バス路線)を公共交通の幹線軸として維持  
 ・久住支所周辺を交通拠点として、地域内のデマンド交通化  
 ・牧草地の野焼き等の地域活動の担い手発掘・育成  
 ・宮処野神社の神保会や獅子舞、久住神社の夏越祭りなど、地域の祭りの継続のため、担い手の確保・育成

- 凡例**
- 商業施設
  - 医療施設
  - ▲ 福祉施設
  - 学校・幼稚園・保育所
  - 社会・文化系施設
  - 市役所
  - 支所
  - 鉄道駅
  - 鉄道路線
  - 国道
  - 県道
  - 都市計画区域
  - 都市的地域
  - 農業的地域
  - 森林的地域
  - 自然公園的地域

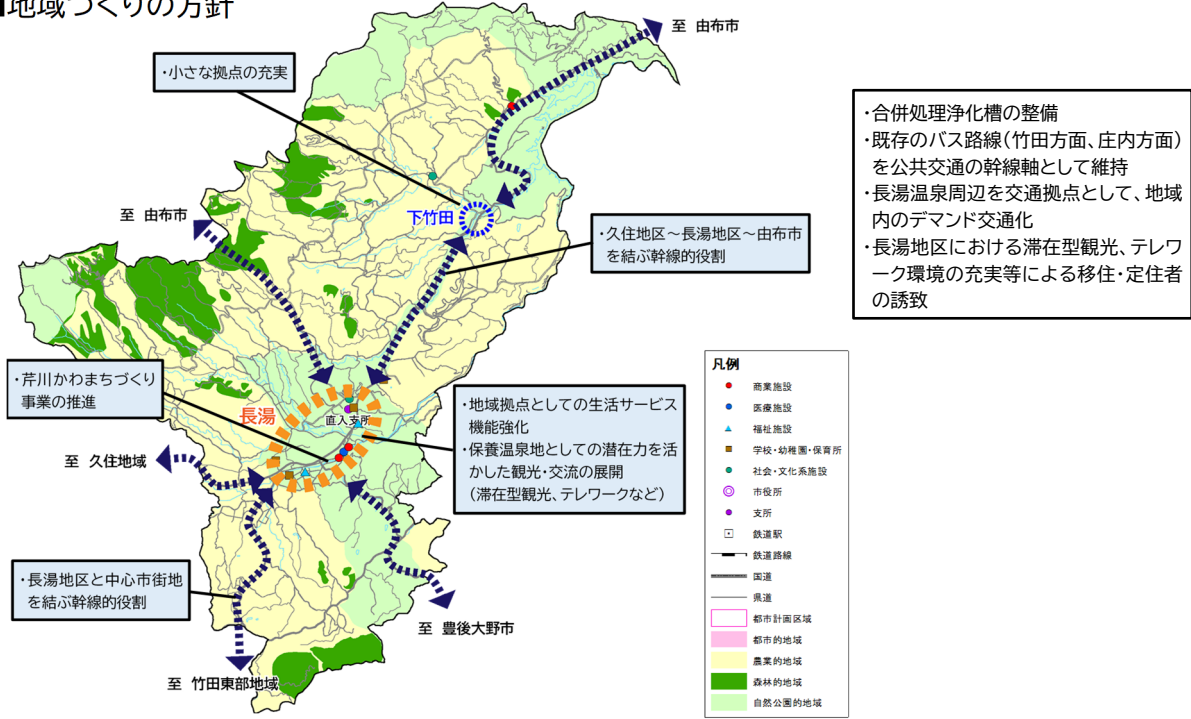


## 直入地域

### ■地域づくりの将来像

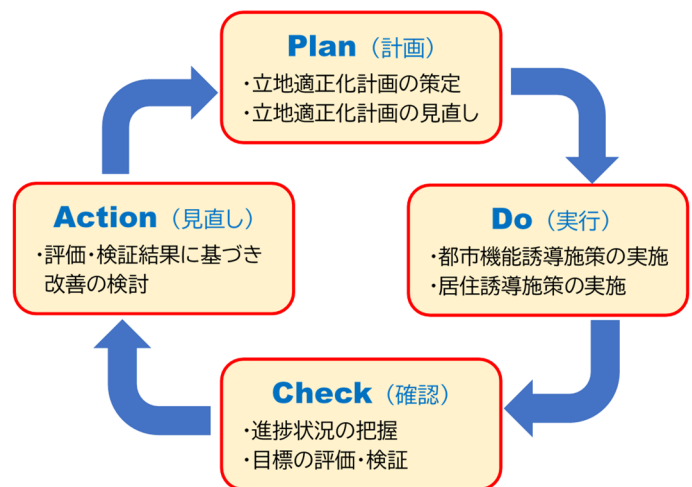
地域の宝である温泉と水を、健やかな生活と観光に活かす  
地域づくり

### ■地域づくりの方針



## 計画実現の方策

- 狭義の都市計画分野にとどまらず、交通、住宅、商工業、農業、観光、福祉など様々な分野との連携により、総合的なまちづくりを推進します。
- 竹田市立地適正化計画と連携し、一体的に進めることで、市街地の居住人口の維持や利便性向上、ひいてはまちの活力の向上に努め、持続可能なまちづくりを推進していきます。
- 本市の税収に限りがある中、今後生じる公共施設や住宅などの供給・整備においては、民間活力を導入しながら行う必要があるため、その仕組みづくりを推進していきます。
- 市民・事業者・行政が協働でまちづくりを行う仕組みを継続するために、協働のまちづくりの醸成をより一層推進し、少子高齢化が進む中で次世代の担い手育成を推進していきます。
- 現在策定中の「竹田市総合計画」など各種上位・関連計画の見直しや、国・県の都市施策、防災施策など本計画に関連する施策の見直しを踏まえながら、必要に応じて見直しを実施していきます。特に、「竹田市立地適正化計画」の進捗状況の評価とは整合をとるかたちで、本計画自体のPDCAサイクルによる評価も踏まえながら、適切な時期における見直しを実施していきます。



## 竹田市都市計画マスタープラン【概要版】

編集・発行

竹田市 建設課 都市計画担当  
〒878-8555  
大分県竹田市大字会々1650 番地  
<TEL>0974-63-4848  
<URL><https://www.city.taketa.oita.jp/>